

GUNMA
HOUSING
AWARD
2019

優良賞

呼吸する家

〈こきゆうするいえ〉

設計者 濱田慎太建築事務所 濱田慎太+塚越祐介

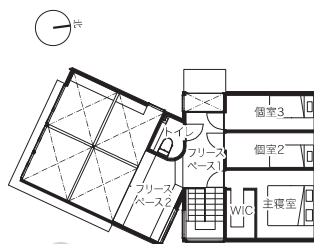
施工者 有限会社 安松託建



鈴木研一写真事務所



鈴木研一写真事務所

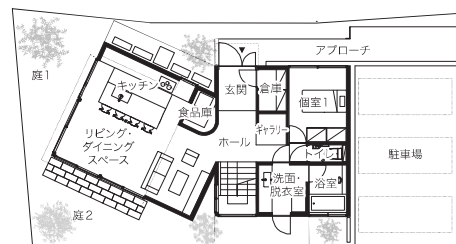


2F



鈴木研一写真事務所

1F



平面図

CONCEPT

設計主旨

関東近郊の宅地開発が進む住宅街に建つ二世帯住宅です。

分譲地特有の整然とした区画割りにより、同じような風景が連続する画一的な周辺環境の中で、限られた敷地を最大限に活用すると共に、この敷地ならではの住まいの可能性を考えました。まず、クライアントの要望である必要諸室を共有とプライベートの2つのボリュームに分け、接道する北側に個室や水廻り等の比較的閉じたプライベートなボリューム、周辺が開けた日当たりのいい南側にリビング・ダイニングやキッチンなど家族が集まる共有スペースのためのボリュームを配し、それら性格の異なる2つのスペースの間を繋ぐようにフリースペースを配置します。プライベートなボリュームは1階に親世帯、2階に子世帯として適度なプライバシーを保ちつつもフリースペースを介してお互いの気配が感じられるような空間としました。また、建物を北側に向かって段々と高くしていく事で風の通り道をつくり、寒暖の激しい地域でありながらエアコンにできるだけ頼らずに、家全体が呼吸するような構成としました。

道路に面した北側2階の個室に設けた大きな開口部は、高さを調整する事で内部のプ

ライバシーを保ちつつ、袋小路で暗くなりがちな前面道路に対して建物自体が照明のようになり、灯りという安全と安心感をまちに提供します。敷地の南側に配した共有スペースのボリュームは、周辺の開かれた環境を最大限に取り込むために一層吹き抜けの開放的な空間とし、周辺の建物や庭に合わせて建物を振ることで、隣地との視線の干渉を和らげると共に、建物周辺に三角形の庭をつくりだします。

不整形な三角形の庭は整形な同面積の庭よりも奥行きができ、内部からの視線は敷地から隣地の庭、その先の道路や住宅へと引き延ばされ、実際の面積以上の視覚的な広がりを生むと共に無機質に分割された区画に変化を生み出します。大きな土間の玄関や家族のギャラリーなど多様な活動を誘発するフリースペースは、共有とプライベート双方の機能を拡張したり補填しながら、季節の移ろいに合わせてフレキシブルに変化することで生活に彩りを与えます。

季節の移ろいや周りの環境に寄り添うように呼吸するこの家が家族の豊かな生活を育み、この土地ならではのぐんまの魅力的なまちなみ形成に寄与することを期待しています。